

科目名		CAD実習 I			
担当教員		廣田 邦昭		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	年々進化を続け、新たな建築業界の主流になる「BIM」というツールを学び、身に付けていく。オートデスク株式会社のBIMソフト「Revit」の基本動作から、自分の表現したいことを適切に表現する方法や、実務で使える豆知識などを学んでいく。				
学習目標 (到達目標)	Revitの基本動作を理解し、定着させる。テキストを見ながらモデリングができる。(木造住宅程度) Revitを用いて適切な図面表現ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	はじめてのRevit & Revit LT				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	課題①テキストChapter 1 (Revitの画面と基本操作)			テキストに沿って、画面構成や基本操作について確認する。	
2	課題②テキストChapter 2 (基本設計)			教師がテキストの内容のデモンストレーションを行う。 解説を聞きながら学生も同時進行で作業をし、モデリングの流れを確認する。	
3	課題④テキストChapter 4 (図面作成)			教師がテキストの内容のデモンストレーションを行う。 解説を聞きながら学生も同時進行で作業をし、図面作成に必要な技術を確認する。	
4	課題⑥テキスト以外の木造住宅のモデリング (シート設定と図面の書き出し/読み込み)			テキストで学習した、操作方法を駆使し、オリジナル木造住宅のモデリングが可能になるようにする。	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題の評価	取組姿勢			「BIM」は、建築業界及び自分の可能性を広げるツールです。中でも「Revit」はこれから主流となっていくであろう重要なソフトの一つです。それを学生のうちに使いこなせるようになっておくことと社会に出てからの活躍の幅が大きく違うはず。ぜひいっぱい触って、楽しみながら技術を身に付けましょう。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	店舗設計デザイン事務所16年勤務を経て現在個人事務所 実務合計47年				

科目名		プレゼン技法			
担当教員		渡邊 美歌		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		プレゼン技法の前期はPowerPointを学ぶ。在学中のコンベ資料作成、発表での操作および、プレゼンテーションに役立つ知識を身につける事を目的としている。また前期授業最終週には検定試験を受ける。全員が合格することを目指す。			
学習目標 (到達目標)		アプリケーション操作を身に付ける。検定試験に合格する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		PowerPointクイックマスター・講師が準備する教材・サートイファイ検定問題集			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	設定とインストール			テキストデータのインストール 終わった人からスキルリサーチシートの入力	
2	プレゼンテーションの作成と文字編集			PowerPointの画面構成と文字の入力、箇条書きの設定について学習する。	
3	オブジェクトの作成			図形描画と編集・ワードアート・画像ファイルの挿入について学習する。	
4	表やグラフの作成			表の作成と編集・グラフの挿入について学習する。	
5	表示効果とハイパーリンク スライドショー			画面切り替えとアニメーション、スライドショー、資料の作成と印刷について学習する。	
6	オブジェクトや表・グラフの活用 検定対策			図形や画像の活用について学習する。検定への本格的な対策を開始する。	
7	検定対策			検定対策練習問題を使用し、検定への力をつける。個人的にアドバイスをしなが、合格レベルまで高める。	
8	検定対策（模擬試験）			検定対策模擬問題を使用し、検定本番と同じように問題を解きながら進める。個人的に弱い部分を見極め、対策する。	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題	検定結果		最近PowerPointが幅広い使われ方をするようになってきました。検定取得を目標としなが、その中で操作をしっかりと習得します。コンベ資料を作成するためにも非常に重要なアプリですので頑張ってください。	
10 %	20 %	70 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		企業のデータ処理等の請負業務、雇用対策講座・パソコン教室でのインストラクター業務			

科目名		一般構造Ⅰ			
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の構造の種類や基本的な仕組みを学ぶ科目で、前期は木構造の基礎や骨組みに関する知識を中心に学び、その特徴や構成を座学や事例を通して学ぶ。			
学習目標（到達目標）		建築物の構造の種類や基本的な仕組みを習得する。前期は木構造の工法や木構造に使われる部材名などを習得し、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための知識を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築一般構造（学芸出版社） ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	地盤 ①地層による年代区分と、土の性質			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	基礎 ①基礎の種類と特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建物にはたらく力 ①荷重の種類・外力の種類と建物にかかる力 ②地震に対する対策と構造計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	建物全体の構造計画 ①建築構造の分類とその特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	木構造の基礎知識 ①木材の性質、特徴 木構造の種類とその特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	在来工法-1 ①在来工法の部材の名称 ②在来工法の基礎と地業の種類と特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	在来工法-2 ①在来工法の軸組の各部材（土台・柱・横架材） ②在来工法の軸組の各部材（筋かい）			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	在来工法-3 ①在来工法の壁の種類と特徴 ②開口部の部材の名称、接合部の納まり			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	在来工法-4 ①補強金物の種類と使用箇所			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10	評価テスト（2回実施予定）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学びます。 1年の前期は木造を中心に解説をし、評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建築事務所において、構造に携わる実務経験3年				

科目名		環境工学			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画と自然環境の関わりを理解し、快適で目的に応じた建築計画について学ぶ。 1. 前期は「建築環境の明るさと物の見え方」と「建築物の温熱環境」について理解する。 2. 快適な建築環境を実現する為の具体的な工夫について学ぶ。 3. 評価テストを適宜行い、理解度を確認する。			
学習目標 (到達目標)		建築空間を取り巻く外部環境や内部環境について理解し、安全で快適な建築空間を作るための知識を習得する。建築士の学科試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい建築環境、配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	視覚と光 ①光の単位 ②光によって生じる視覚の変化。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
2	昼光、人工照明、照明計画 ①日照及び人工照明による照明計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	色の効果 ①色彩によって生じる様々な効果。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	色の表示と表色系 ①表色系の種類と構成			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	温度と熱移動 ①熱の移動と熱伝達、熱伝導、熱貫流率			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	室温と熱負荷 ①室温の変動 ②室内外への熱の出入り ③断熱性能			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①②③の予習	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		評価テスト：評価テストを適宜実施する他、レポートや課題の評価 取組姿勢：授業態度や課題の提出状況の評価	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		設計事務所で設計業務に4年間設計に従事			

科目名		建築CAD設計 I			
担当教員		本間裕		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	AutoCADのインストールから始め、その基本操作を教科書に沿って進めます。基本操作を習得したら、CAD検定3級の過去問題を数多くこなしてもらいます。検定受験対策として、4パターンの問題の描きかたを説明、練習した後できるだけ多くの過去問題を描いてもらいます。				
学習目標 (到達目標)	建築に必要な2D-CADのの基本技術を習得します CAD検定3級の全員合格を目指します				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	徹底解説AutoCAD (エクснаレッジ) /プリント配布(PDF)				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	PC基本知識とAutoCADのインストール			OS、周辺機器について学びます。 ネットワークに接続設定をします。AutoCAD のインストールをします。プリンタの接続設定をします	
2	CADの基本操作の学習-1			①起動と終了 ②図面ファイルの操作 ③作図環境の設定 ④画面操作	
3	CADの基本操作の学習-2			⑤コマンドを使う ⑥レイアウトを使って図面を印刷 ⑦ 1つの図面で異なる縮尺を使いこなす ⑧画層を自在に使いこなす	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			現在、建築業界でCADでの実務はとても重要です。CADを楽しむ気持ちで授業に臨んでください。CADを好きになってください。	
90 %	10 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築設計監理実務37年 一級建築士事務所主宰26年			

科目名		建築計画Ⅰ			
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→評価テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。			
学習目標 (到達目標)		建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築計画 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築計画の基本知識-1 ①単位と寸法 ・建築で使用される長さ及び面積の単位			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	建築計画の基本知識-2 ①人体寸法と動作寸法 ・人間工学に基づく人体寸法と動作寸法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建築計画の基本知識-3 ①建築計画の進め方 ・モジュールとモジュラーコーディネーション ・機能計画 (ゾーニング・グルーピング)、動線計画、規模計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	独立住宅の計画-2 ①独立住宅の平面形式 ・平面形式(プランタイプ)について ②独立住宅の事例			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習	
7	独立住宅の計画-3 ①独立住宅の工法 ・住宅の工法に関する用語,各種工法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取組姿勢		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に評価テストを行い習得状況の確認する。 また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。 習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		公共・住宅設計に10年従事			

科目名		建築材料			
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を学ぶ科目で、前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質の習得を目的として、座学や事例を通して学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を理解する。前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質のに関する知識を習得し、2級建築士学科試験における科目範囲の合格点に達する力をつける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築材料 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築材料の概要 ①建築材料の歴史・規格・環境・分類・性能			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	木材-I ②日本建築における木材の種類・特徴 ③木材の強度・構造			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
3	木材-II ④木材と水分 ⑤木取り、規格、等級			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	木材-III ⑥エンジニアリングウッド			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	コンクリート-I ⑦コンクリートとは ⑧セメント・骨材・水の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	コンクリート-II ⑨混和材料 ⑩コンクリートの性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	コンクリート-III ⑪コンクリートの調合設計・種類 ⑫コンクリートの製品			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	鋼材-I ⑬鋼材とは、製鋼の工程 ⑭鋼材の特徴・種類			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	鋼材-II ⑮鋼材の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築系の各種試験を受験するにあたって、建築材料についての知識は必須となります。1年次前期では日本の建築で多用される木材・コンクリートの知識を学習するため、重要科目と捉えて、配布プリントやテストで確認しながら合格基準への到達を目指します。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築事務所において建築材料を取り扱う実務経験3年			

科目名		建築史			
担当教員		熊谷貴子		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に記載された用語やその説明・建築物名などをマークする</li> <li>・まとめノートの板書</li> <li>・映像資料を視聴し感想文を記入する&lt;映像レポート&gt;の提出</li> <li>・テストで学習達成度の確認する</li> </ul>			
学習目標 (到達目標)		西洋建築の様式とその特徴、代表的な建築物や建築家を学ぶ			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 建築の歴史 (学芸出版社) ●各自で準備 ●教科書をチェックする色ペン ●まとめノート			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	「建築史」を学ぶということ・にいがたのケンチク			建築の歴史を学ぶ意義、新潟の著名建築とその建築家を学ぶ	
	オリエントの建築			古代オリエントの代表的建築物を学ぶ	
2	ギリシア建築			ギリシア建築の特徴と代表的建築物を学ぶ	
	ローマ建築			ローマ建築の特徴と代表的建築物を学ぶ	
3	初期キリスト教建築・ビザンツ建築			キリスト教建築のはじまりと 東ローマの代表的建築を学ぶ	
	ロマネスク建築			ロマネスク建築の特徴と代表的建築物を学ぶ	
4	ゴシック建築			ゴシック建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ	
	ルネサンス建築			ルネサンス建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ	
5	バロック建築・ロココ			バロック建築とロココの特徴と代表的な建築物を学ぶ	
	新古典主義建築・歴史主義建築			新古典主義・歴史主義の特徴と代表的な建築物を学ぶ	
6	評価テスト			学習達成度の確認	
7	産業革命と建築			産業革命による技術革新とアーツ&クラフツ運動を学ぶ	
	近代造形運動			アールヌーボーと各地の近代造形運動を学ぶ	
8	モダニズム建築			近代建築三大巨匠のフランク・ロイト・ライト ミス・ファン・デル・ロエール・コルビュジエ を学ぶ	
9	期末テスト			学習達成度の確認	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
テスト	提出物	取組姿勢		世界の建築物とその様式を学び、これからの新しい創造への基礎知識としましょう	
80 %	10 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部講師、現在家業の建築大工と協働			

科目名		建築施工Ⅰ			
担当教員		笠原 涼馬		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築を考えるうえで建築施工の基礎的な内容を理解しておく必要があります。そのために前期の授業では、工事契約から基礎地業工事を中心に解説します。建築施工を理解でき、説明できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題→解説を繰り返します。評価テストを実施し、理解度を確認します。			
学習目標（到達目標）		前期は工事契約から基礎地業工事を中心に学び、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための理解を目指します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 建築施工 編著者：江口清ほか 発行：（株）学芸出版社 ②配布プリント、③配布資料★			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	【工事契約】 ①建築に関わる人々と工事の流れ・工事請負契約書 ②工事請負契約約款・仕様書			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	【積算】★ ①工事費の構成 ②工事費の算出 ③数量積算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②、③を理解する 準備学習：教科書①、②、③の予習	
3	【施工計画】 ①施工計画 ②施工計画書 ③工程計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②、③を理解する 準備学習：教科書①、②、③の予習	
4	【施工管理】 ①品質管理 ・ 工程管理 ・ 安全管理 ②原価管理 ・ 環境管理			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	【地盤調査】 ①地盤調査の種類（サウンディング、平板載荷試験）			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	【測量】★ ①直接仮設工事の測量 ②各種測量			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	【仮設工事】 ①共通仮設 ・ 直接仮設 ・ 作業床 ・ 仮設通路 ②はしご道 ・ 災害防止措置			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	【土工事】 ①根切 ・ 埋戻し ・ 排水 ・ 山留			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	【基礎地業工事】 ①基礎 ②杭			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	期末試験	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築施工について解説します。 1年の前期は工事契約から基礎地業工事を中心に説明し評価テストと期末テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。 取組姿勢：授業態度、欠席、遅刻など総合的に判断します。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		不動産関係の営業1年、施工管理として2年			

科目名		建築設備			
担当教員		伊與部 聖奈		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、 授業の進め方		授業はプリントを使用し、分かりやすい言葉を用いたり図を描くなどして、イメージがしづらく取っ掛かりにくい設備分野の理解、知識習得を目的とする。また、練習問題を実施し、どのような出題形式で問われるかも合わせて確認する。 前期では、給排水衛生設備、換気設備、電気設備などの試験でも中心的に問われる分野を学習する。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初学者の建築講座 建築設備 (第五版)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	給排水衛生設備			給排水衛生設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
2	換気設備			換気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
3	電気設備			電気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
4	※各分野ごとに評価テストを行う。(4回を予定)				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	取り組み姿勢		各分野ごとに評価テストを行う。また、評価テスト及び期末試験時には知識の書き込みを課すのでその内容や量を取り組み姿勢として評価する。出席状況や授業中の取り組み姿勢も加味する。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
50 %	40 %	10 %	%	建築設備は快適な居住環境を整えるためになくてはならないもの。身の回りで使われているところを探し、イメージを持って学習しましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			

科目名		建築法規Ⅰ			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築を考えるうえで建築基準法の基礎的な内容を理解しておく必要があります。そのために授業では、建築基準法などの基礎的な内容（主旨）を中心に解説します。基礎的な内容（主旨）を理解でき、法令集で確認できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題（法令集で確認）→解説を繰り返します。2～4回の授業毎に評価テストを実施し、理解度を確認します。			
学習目標（到達目標）		人々の生命・健康などを守るため建築物の最低の基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本的な内容（主旨）を習得し2級建築士の筆記試験範囲にあたる合格点に達する理解度を目標とします。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説やさしい建築法規 著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社 ②建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院、③配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	法規ができた歴史と改正等			建築基準法の歴史と法令集の扱い方	
2	①建築基準法の概要 ②法令用語の読み方			達成目標：項目①～②の法に関する分類・構成・形式を理解・説明できる 準備学習：教科書①～②の予習	
3	用語の基本定義 ①建築物・建築設備・居室・主要構造部・大規模の修繕 ②模様替え、特殊建築物・指定工作物			達成目標：項目①～②の法に関する条件・規制を理解・説明できる 準備学習：教科書①～②の予習	
4	建築手続き ①確認申請を必要とする建築物、 ②中間検査・完了検査、建築主事 ③特定行政庁・指定確認検査機関 ④建築主、設計者、施工者、建築主事等の役割			達成目標：項目①～④の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①～④の予習	
5	採光に関する基準 ①居室の採光 ②有効採光面積			達成目標：項目①の居室に採光の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
6	換気に関する基準 ①居室換気の種類、換気の種類 ②アスベスト規制・シックハウスに関する基準			達成目標：項目①～②の居室に換気の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①～②の予習	
7	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ、床の高さ ②地階の住宅等の居室、長屋・共同住宅の各戸の界壁 ③階段、階段に代わる傾斜路			達成目標：項目①～③の条件・規制が理解でき計算ができ説明できる 準備学習：教科書①～③の予習	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本的な内容（主旨）を習得し、2級建築士の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する理解度を目標とします。	
50 %	40 %	10 %	%	取組姿勢：出席、授業態度、法令集線引きなどの課題、提出物の評価	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		設計事務所にて設計業務を4年従事			

科目名		構造力学Ⅰ			
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築系講義における構造力学の位置づけを理解する。 まずは構造力学を学習するにあたり必要な算術計算を理解した上で、部材に作用する力とは何かを学び、その力に関する基礎から反力までを学ぶ。 各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)	部材に作用する力の種類と計算方法を習得し、力の基礎から反力までを理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	構造力学に必要な算術計算			これから構造力学を学ぶにあたり、必要となる基礎的な算術計算を復習する。	
2	力の基礎			力の表現方法(主に力の向きと符号)を習得し、力を分解することについて学ぶ。	
3	力のモーメント			離れた力が離れた点にどのように作用するのかを学び、その計算方法を習得する。	
4	合力			部材に複数の力が作用するような場合、合わせてどのくらいの力が作用するのかを学ぶ。	
5	分布荷重			部材に分布する荷重を学び、その考え方と合力の算出方法を習得する。ここまですべての評価テスト1で確認する。	
6	力の釣り合い			以後反力を学ぶにあたり、部材が静止すること・部材が釣り合うということについて理解を深める。	
7	構造物の支え方			部材の支持方法によって発生する反力の種類と特徴を学ぶ。	
8	単純梁・片持梁・張出梁の反力			以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。	
9	ラーメンの反力			以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。ここまですべての評価テスト2で確認する。	
10				※評価テスト2の後で前期で履修した内容の応用問題にも挑戦し、これまでの内容について前期の終盤(現段階では夏休み明けの週を予定)に最終評価テストを行う。	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト1	評価テスト2	期末試験	取組姿勢	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ぎどころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。	
20 %	20 %	50 %	10 %		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	住宅設計に11年間従事				

科目名		就職実務Ⅰ			
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		就職するうえで就職活動の基礎的な内容、準備作業を理解しておく必要があります。そのために授業では、自己分析から文章作成、業種・職種の情報収集など実践的な内容に取り組みます。就職活動に必要な準備を1人でも行動できるようになることを目指します。 授業の進め方は、講義→レポート（文章化）→分析を繰り返します。課題を3回実施します。			
学習目標（到達目標）		自分を知り、企業を研究して自分に適した業種、職種を見つける。就職活動の流れや準備ができることを目指します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①Success ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	就職活動について1 ・就職活動の流れ			近年の就職活動の流れを知る。自分が就職活動で何を準備するのか想像する。	
2	就職活動について2 ・就職活動の心構え			働く意義、企業が求める人材、身だしなみ、挨拶、敬語などを学び、今から準備できることは今から取り組む。	
3	自分について1 ・自分を知る			自分に適した職種・業種を見つけ出すために自分がどんな人間なのかを知る。	
4	自分について2 ・自分の未来を描く 【課題1：自己紹介文を作成して提出】			自分の1年後、5年後、10年後どのようになっているのかイメージする。今の自分が未来をつくることを意識する。	
5	業種・職種について1 ・職業を知る			自分に合う職業について考える。未来の自分を具体的に想像する。また未来を実現するために必要な資格を確認する。	
6	業種・職種について2 ・企業研究・情報収集 【課題2：企業見学前後を含めたレポート提出】			1企業について研究する。企業の特徴を知り、自分の志望動機、自己アピールができるよう研究する。実際に企業を見学してレポートにまとめる。	
7	採用について ・採用試験の選考内容 【課題3：模擬採用試験の提出】			書類審査、一般常識試験、適正検査、作文、面接など企業による採用試験の種類が色々あることを確認する。自分が何を準備する必要があるのか考える。	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			就職活動は1年後半から始まります。その時になって慌てることの無いように準備を進めます。まずは自分を知り、未来を想像して取り組んでください。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		公共・住宅設計に10年従事			

科目名		住宅計画演習			
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		独立した一戸建て住宅を題材として様々な課題に取り組む。まずは一般論としての住宅計画の手法を学び、その上でオリジナル住宅の計画としてプランニングを行う。住宅の設計手法の基礎を習得し、様々な課題に於いてエスキスを完成させる。各課題に於いてフィードバックを行い技術向上を目指す。			
学習目標 (到達目標)		ゾーニングや動線計画の上、室や家具・設備機器の大きさ等を考慮したエスキスを完成させる。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図解 すまいの寸法・計画辞典 ・ 配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	快適な空間とは			快適な居住空間の為に配置計画や採光を考慮したプランニングを考察して習得する。	
2	快適な暮らしとは			毎日を快適に過ごす為にゾーニングや動線計画を考慮したプランニングを考察して習得する。	
3	一般的な住宅プランとは			標準的な住宅プランを基に各室のプランニングの基礎を学ぶ。それを一つのパターンとして習得する。	
4	課題1.オリジナル住宅エスキス			建物の規模の算定を行い、建物を配置後平面計画を行う。エスキスを完成させて提出し、フィードバックを行う。	
5	課題2.オリジナル住宅エスキス			建物の規模の算定を行い、建物を配置後平面計画を行う。エスキスを完成させて提出し、フィードバックを行う。	
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			建築士試験の製図試験に取り組むにあたり、必要となる設計手法の基礎となる部分です。設計条件と考え方の流れを意識して取り組みましょう。方角や道路の位置等も考慮してプランニングを行い、快適に過ごせる設計となるよう計画していきましょう。様々な要求を加味して、プランニングをする際のカチッとパズルがはまるような達成感を楽しみましょう。	
80 %	20 %	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		公共設計に10年間従事			

科目名		住宅構造模型演習			
担当教員		高橋 二三雄	実務授業の有無	有	
対象学科		建築士学科N・S、建築デザイン	対象学年	1学年	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面と立体の間を自在に往き来して、創造する能力と空間造型構成力を養います。</li> <li>・2次元の図面から3次元の建築物をイメージできる能力をトレーニングします。</li> </ul>			
学習目標 (到達目標)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を動かして、ものづくりに取り組み、模型づくりの基本作法を身につけます。</li> <li>・2年次はコンペに参加します。その時の表現方法として活用できる能力を習得する。</li> </ul>			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料、製図用具、2mm両面テープ、カッター、定規、下敷A2は共用			
NO.	授業項目、内容、主材料		学習方法・準備学習・備考		
1	L00 模型の種類と役割		L-00オブジェ： 自由な立方体を作りながら、道具の使い方、模型の種類と役割について学ぶ、オブジェを作る		
2	L01 平面造型の基本課題		L-01パズル： 簡単なパズルを作り、多様な形状を作る。		
3	L02 立体造形の基本課題		L-02箱： 正方形50x50を7枚x2セットを使って箱をつくる。同形同サイズを7枚使う利点を考える。		
4	L03 模型製作の基本練習課題		L-03立方体： 簡単な立方体を作る。欠き落としの練習		
5	L04 白模型製作の練習課題		L-04家のカタチ： 家のカタチを作る。同じ形をx2個以上作る。		
6	L06 白模型製作の練習課題		L-06切妻： 切妻屋根の住宅模型を作る。完成したらバージョンUP増改築する。		
7	L08 木造2階建ての白模型制作課題		L-08： 課題図面に基づき、L字形平面の住宅模型を作る。完成したらバージョンUP増改築する。		
8	共同制作 白模型の共同制作課題		共同制作： 白模型を作り、コンペの練習とする。		
9	オプション		キューブパズル t2、A2 x 1枚		
10			合計 学生1人毎		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
取組評価	課題の評価			1、各課題成果物提出にて評価します。不合格の場合は再度作成し、次回授業始めに提出してください。取組姿勢内訳は(提出期限30%)とします。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準はS(90点以上) A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築・デザイン設計事務所を経て現在個人事務所実務合計31年			

科目名		設計製図A			
担当教員		渡邊 長利		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築を考えるうえで設計の基礎的な方法を理解しておく必要があります。そのために授業では、道具の扱い方、線の書き方、木造2階建ての図面を中心に習得します。作図方法と木造の図面が理解でき、図面を作図できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→課題：2階建て設計図（配置図、平面図、立面図、断面図、矩形図）を仕上げます。最後の授業で木造2階建ての設計図の課題を提出します。			
学習目標 (到達目標)		前期は設計の基本的な方法と木造の設計図を学び、課題を提出し設計技術の習得を目指します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①初学社の建築講座 建築製図 著者：瀬川康秀 発行：市ヶ谷出版 ②製図道具一式、製図版			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	製図道具の確認・記名・説明			製図道具は全員が同じ道具を使うため、中身を確認し記名すること。各種道具については使い方を各自自主的に学び習得すること。	
2	基本練習 (線の描き方)			芯の太さの違うシャープペンシルを使い分けて、線の太さ、線種、濃淡の違いなどを体験する。A3サイズで提出。	
3	課題1 配置図、平面図			木造平面図・配置図の描き方を学ぶ。ケント紙A3サイズのレイアウトに注意して作図をおこなう。線の太さや線種の使い分けを習得する。完成後提出。	
4	課題2 立面図・断面図			木造立面図と断面図の描き方を学ぶ。ケント紙A3サイズにレイアウトし作図を行う。屋根や開口部、建物の断面構成を習得する。完成後提出。	
5	課題3 矩計図			木造矩計図の描き方を学ぶ。ケント紙A3サイズにレイアウトし作図を行う。細かい部分の寸法、部材名を意識して作図をおこなう。完成後提出。	
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢	課題提出締切		本科目は建築士試験における二次試験の作図の基礎を学びます。線の太さと濃淡を意識してメリハリのある線を描くように心掛けましょう。課題提出締め切りを意識し、 <b>提出期日厳守</b> にて課題に取り組んでください。また、集中力を切らさず取り組むことも練習しましょう。木造の設計技術に関して習得することを目標とします。	
50 %	10 %	40 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築デザイン事務所において、国内外の大型案件の計画・設計に携わる。現在は自身の事務所にて設計はじめ各種デザイン業務を行う。			